

## 知事と区市町村長との意見交換（清瀬市）

令和1年9月30日（月）

11時10分～11時30分

○行政部長 それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○知事 本日、渋谷市長には都庁まで御足労をお掛けいたしております。また、日頃からの都政運営の御協力に、改めて御礼申し上げます。

今日はこれからの長期戦略を描く上で、一つ一つ、それぞれの御事情、地域の課題、そして将来の夢等、それぞれおありだと思しますので、直接お話を伺わせていただくという、そういう機会でございます。限られた時間ではございますが、どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 市長、よろしく願いいたします。

○清瀬市長 それじゃあ、具体的なことについて。1点目は都営住宅用地の活用についてあります。東京都は東京都住宅マスタープランの中で目標実現の着眼点の一つに、既存ストックの有効活用を掲げておまして、様々な住宅政策を展開していただいているところでもあります。

しかし、都営住宅用地におきましては、建て替えにより創出された用地が長年活用されていない状況であり、防犯、防災の観点からも、地域のイメージを大きく損なう恐れがあります。

写真は清瀬市中里地域の都営住宅跡地であります。僕のうちのすぐ近くです。そのような中、市内の一部の都営住宅と、その周辺地域では高齢化に伴い、東京都内の都市でありながら買い物をすることが困難な住民が出ております。かつて消費が旺盛な多くの現役世代の住処であった都営住宅の変容は、小売店に大きな影響を及ぼし、営業撤退に繋がっております。

このような状況から、地元では都営住宅用地内にコンビニエンスストア等、商店を誘致できないかといった声が挙がっております。様々な課題があろうかと思いますが、まずは課題認識を共有していただき、実現に向けて御協力をいただければと思っています。

また、清瀬市内に都営清瀬中里4丁目アパートを新設するにあたり、既存の都営住宅の取り壊しが計画されておりますが、この都営住宅には清瀬市立の認可保育園が併設されていることから、代替施設の確保が清瀬市にとっては大きな課題となっております。写真の1階が保育園、2階から上が都営住宅となっております。

清瀬市はこれまで東京都と連携し、待機児童解消のため、近年大幅な定員増を図ってまいりましたが、いまだ待機児童解消にいたっておらず、引き続き待機児童対策を図っていく必要がございます。

また、職員の採用計画にも大きく影響があることから、令和7年4月に代替施設の保育園を開園できるよう、地域の実情にあった活用について、現在も住宅政策本部を中心に御

検討をいただいておりますが、引き続き御検討いただきますよう要望させていただきます。

2点目は豪雨による震災、浸水被害防止対策の拡充です。清瀬市では豪雨による住宅浸水や道路冠水の被害が相次ぐ中、抜本的な対策として市の全体面積の約10分の1にあたる115ヘクタールの区域について、雨水幹線の整備を平成25年度より着手し、平成30年度末現在、4割ほどの幹線整備が完了しております。

また、補助的な対策として、個人住宅に対する雨水浸透ます設置助成をはじめ、道路排水施設の浸透化や市内小・中学校校庭に雨水浸透貯留施設を設置する等、雨水流出抑制対策も実施しております。

しかし、依然として住宅浸水や道路冠水の被害が発生してしまう地域があり、市民からはさらなる浸水対策として、雨水貯留浸透施設の整備や、個人住宅に対する雨水タンク及び取水盤の設置費用にかかわる助成等を強く求められております。

そこで、市の北部を流れる柳瀬川を東京都豪雨対策基本方針で定める対策強化流域の対象河川に認定していただくと共に、東京都からの財政支援をお願いし、流域対策を進めてまいりたく、要望させていただきます。以上が具体的な施策についてであります。

○行政部長 知事、よろしくお願いたします。

○知事 まず、都営のアパートの建て替えに関して、今はこの保育園がついているわけですね。それについての代替施設でも確保をというお話だったかと思えます。待機児童も、昨年度は44人、今年度が28人で、まだ何人かいらっしゃるということで。

市が保育園の整備を重視しておられることはよく理解しております。これまでも都営住宅建て替えの際は、市の協力を得ながらやってきておりますので、引き続きお話のこの代替施設の確保、これも含めて十分協議をさせていただきますので、進めてまいりたいと思います。

それから創出された御近所の緑の用地でありますけれども、地元の御意見は、これは市長の御意見なのか。お伺いしながら、有効な活用をしていければと思っておりますので、引き続き協議させていただこうと思えます。

それから先ほどの自衛隊の話もありましたけれども、昨今は本当に災害が非常に甚大であるということでございます。それによって特に水害については想定を越える雨量であったりすることから、これまでも都としても想定を見直すことも進めてまいりました。

そのためには河川、それから下水道の整備ですね。それから御指摘あった貯留であるとか、浸透によって河川や下水道への雨水の流出を抑制するような流域対策を行うということは、効果的であることは言うまでもありません。

ということで、流域の対策をより一層推進していくためには、今日お話のありました件につきましても、実効性のある取組に努めていきたいと考えております。今、担当の方でいろいろ精査をしているところと聞いております。私からは以上でございます。

○行政部長 市長、何かありますでしょうか。

○清瀬市長 雨水についてはグレッタさん。スウェーデン人の女の子も16歳でもうめちゃくちゃ世界に訴えて、それを世界が全部受け取ってるじゃないですか。それくらい地球温暖

化現象というのはどんどん進んでいってしまうだろうと思っておりまして、だから温暖化対策といったところでは、清瀬市は大林組技術研究所があるんですよ。

大林組技術研究所は山梨県の大月ですけども、そこに木質バイオマス発電所、3万世帯にちゃんと電気を供給できる。しかも、化石燃料、温暖化の原因になる化石燃料を一切使っていないというようなものも始めてますし、清瀬にあるその大林組の技術研究所の建物は普通の化石燃料の電気は使わない、何とかゼロ。

○知事 RE100。リ・ハンドレッド。

○清瀬市長 うん。日本で初めての技術だと。

○知事 ここもそうなんです。

○清瀬市長 ああ、そうですか。そういうふうに温暖化はしっかり立ち向かっていかないととんでもないことになっていってしまうんじゃないか。もう15号の時は一生懸命外れてくれ、外れてくれと。千葉県には申し訳なかったですけどね。もう清瀬なんかに来られたら、財政力が清瀬はないんですからね。

○知事 大林の研究所とか、企業関係はどういう。

○清瀬市長 だから技術研究所があって、でも税収にはつながらない。例えばBCGは毎月5,000万人分、ワクチンを世界に送ってるんですよ、ユニセフを通して。それも残念なこと文京区に本社がいつちゃってて、清瀬でワクチンはつくっているんですよ。それで戻って来てくださっていったら、やっぱり都市計画が清瀬うまく出来上がってないから建てらんないんですよ。

そういうBCGもありますし、サーモスタットという自動車の温度調整の世界の市場占有率は20%ぐらいあるみたいな、こんな小さな器具というか、そういうものです。

○知事 それは製作が清瀬にある。

○清瀬市長 そう。だから東京管区气象台も清瀬に移ってこられたの、もう御存じですよ。気象庁本庁から、7月16日からもう業務を開始しています。もう本当清瀬は金がないんですけど、気象庁の気象衛星センター、そこにスーパーコンピューター、世界で1番2番の気象に関するスーパーコンピューターが清瀬で仕事をしてしてくれてるんです。

○知事 逆に言うと職員は清瀬に住んでいるとか。

○清瀬市長 いや、今まで気象衛星センターだけでしたから130人だったんですけど、そこに本庁から清瀬に130人移ってきてとあったところで、直下地震がきた時に二つだめになつたら大変だということで、清瀬に。

○知事 人口もほぼ横ばい。

○清瀬市長 ちょっと微増できているんですけども、半年ぐらい前から、100人ぐらい減るといったところで。でも実質上は500人ぐらい多いんですよ。統計調査すると日本社会事業大学、日本看護学校、それから。

○知事 学生さん。

○清瀬市長 明治薬科大学。それから看護研修学校というのがありますから、学生総数は大体3,600人ぐらいになって、女子が多いんですよ。結局、自分の来た所から住所をこ

っちへ移しませんから、大体 500 人ぐらいが、だから住んでる人は多い。だから 7 万 5,000。実質は 300 人前後になるかなという。

○知事 学生さんが多い。

○清瀬市長 そうなんです。

○知事 高齢化率は。

○清瀬市長 高齢化率は 26 市で 1 番 2 番じゃなかったでしょうか。

○行政部長 高齢化率は高い

○清瀬市長 高いです。結局昭和 6 年に東京都立清瀬病院が出来て、15 の病院、5,500 のベッド数の東洋一のサナトリウムの街ということ、そういう構想を辿ってきましたから、今障害者の方もとっても多いです。施設も多い。でも市民は反対しないんですよ。すっかり当たり前みたいな、そういう感覚に地域がなってきたくていて、ここで建て直するのが喜望園の方かな。喜望園の方は体の難病で障害になっているという喜望園を建て替え。療護園は去年に完成しています。

だからひだまりの里という施設は、一番お金があるような都内は区民が反対して作らせませんでした。それが清瀬に移ってきて、清瀬には一切私の所に反対の声は聞こえなかったんですよ。

結核で外科手術なんかすると、銭湯がもうそういう背中にいろいろ入っている方も多くて、逆に自分に傷がないのが恥ずかしいくらいだ。そんな人のことを市民のある年配の方から聞いたりしたことがあって。

だから地域が、僕の地盤は金がないけど心が育つてると思っておりまして、我慢する力も幸せになるためにはある程度は絶対必要だと。なんでも思うとおりになると、どんどん市民住民はわがまになっていってしまう。そうすると、やっぱり相手を受け入れるなんて気持ちが生まれてきませんので、清瀬はそういう昭和 6 年からの、とにかく歴史的な展開の中で地域にしっかり我慢する力が。でもこの立場で我慢してくださいなんて言えないですけどね。

○知事 あと、長期戦略は。

○清瀬市長 長期戦略は、世界医療文化遺産です。

日本結核予防会、去年 7 月 5 日に北里研究所と結核と戦ったということについての協定を結びましょうということで、7 月 6 日には日本結核予防会と協定を結ばせてもらってます。

そういうところ、今フランス大使館に、ベトレームの園病院というのが清瀬にあるんですけど、今だから聖ヨゼフ、聖家族という老人ホームや、とにかく小学校、中学校と幼稚園とか、そういう場所になってるんですけど、その原点はだから昭和 8 年にフランス人のフロジャク神父が、皇室の支援もいただきながら結核療養を開設して、その 2 年後にベトレーム病院になっていって。

だから日本人が結核で国民が苦しんでいる時に、フランス人が助けてくれたんですよ。だから、その歴史を大事にしましょうよと。

○知事 分かりました。ぜひ健康をテーマにしながら、健康は都民誰もが願っていること

ですから、その意味でいいモデル地域っていうか、市としてこれからも金太郎力で頑張っていたきたいと思います。ありがとうございました。

○清瀬市長 どうもありがとうございます。

○行政部長 意見交換を終わらせていただきます。ありがとうございました。